

10. 性能

項目	「墜落制止用具の規格」	
肩・背中・腰・腿・胴ベルト	15.0kN 以上	
フック	11.5kN 以上	
フック外れ止め装置	1.0kN の力を加えた時、隙間に φ3mmのピンゲージが通らないこと。	
環類	11.5kN 以上	
肩/腿ベルト用バックル連結部	6.0kN 以上	
胴ベルト用バックル連結部	8.0kN 以上	
ストラップ・平ロープ・蛇腹・ショックアブソーバ	15kN 以上	
ショックアブソーバの衝撃吸収性	重さ100kgの重錘またはトルソーを自由落下距離で落下させた場合に、衝撃値が4.0kN以下であること、またショックアブソーバの伸びが1.2m以下であること。	
フルハーネス本体	引張強度	順方向引張強度15kN 以上 逆方向引張強度10kN 以上
	落下強度	脚部および頭部から先に落下させた時に、トルソーを保持すること。 落下後のランヤードとトルソーのなす角度は45°以下。 ベルトの著しい裂け、縫製部の破断、金具の破損なきこと。

製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>



☎ 0120-125577

受付時間：
月曜日～金曜日 9:00～17:00

(12:00～13:00/祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3

www.tajimatool.co.jp

保管用 第2版
55878

ご使用前に必ずお読みください。

Tajima

「墜落制止用具の規格」適合品

取扱説明書

フルハーネス型 タイプ1

このたびは、《墜落制止用具フルハーネス型 タイプ1》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる墜落制止用具です。ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。

▲危険 ▲警告 ▲注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社 HP にも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HP アドレス：www.tajimatool.co.jp

(HP トップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

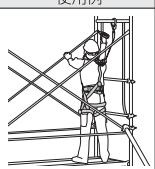
この墜落制止用具はフルハーネス型 タイプ1 (1本つり)専用です。

●目次

1.用途	2～3	5.フルハーネスへのフルハーネス型 ランヤードの取付け方法	14
2.フルハーネス本体の構造および各部名称	4～5	5-1 フルハーネスの背中ベルトにフルハーネス型 ダブルランヤードを固定する方法	14
3.装着方法	6	5-2 フックの操作方法	14
3-1 装着方法	7～8	5-3 フックの使用法	14
3-2 バックルの使用方法	9	5-4 フックハンガーの使い方	15
3-3 ベルトの長さ調節	10～11	6.必ずお守りください (使用上の注意事項)	15～19
3-4 AR環の使用法 (ZAのみ)	11	7.点検と廃棄の基準	20～22
3-5 SEGフルハーネスとSEG胴当て ベルトの取付け方法	12	8.保管と手入れのしかた	23
3-6 胴ベルトの取付け方法	12	9.交換の目安 (耐用期間)	23
4.フルハーネス型ランヤードの構造 および各部名称	13	10.性能	24

1. 用 途

このランヤードはフルハーネス型タイプ1※1(1本つり※2)専用です。その使用例および用途は次のとおりです。
その他の用途には使用しないでください。

使用例	用 途
	2m以上の足場のある高所作業において、作業者の墜落・転落による危険を防止するために、フルハーネスに接続して墜落制止用器具として使用するランヤードです。フック取付け設備が腰の高さよりも上にある作業環境で使います。

※1 タイプ1

自由落下距離で墜落を制止する時の衝撃荷重が4.0kN以下になる、第1種ショックアブソーバを備えたランヤードとなります。

※2 1本つり

図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。

種類：フルハーネス型 種別：第一種(4kN)

- ・体重(装備重量含む)：100kg以下
- ・最大自由落下距離：2.3m
- ・落下距離：4.1m

でご使用ください。

製品のラベルにも記載がありますので、上図赤枠内の表記を必ずご確認ください。

「墜落制止用器具の規格」適合品 株式会社TJMデザイン			
フルハーネス型	第一種(4kN)	100kg	10000000
種別	種別	使用可能質量	製品番号
2.3m	4.1m	フックに表示	製造年月
最大自由落下距離	落下距離		

- 最大自由落下距離 このショックアブソーバの性能を確認している試験落下高さです。実使用上は、フックを掛ける高さによって距離が変動します。
- 落下距離 体重(装備重量)100kgの方が、高さ0.85mの親綱および単管にフックを掛けた状態で墜落した場合の作業床からの落下距離です。
- 使用可能質量 体重と装着する全ての物の合計重量です。

▼安全にご使用いただくために必要となる作業所～床までの距離

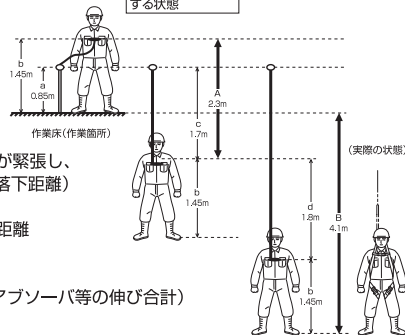
	親綱および単管にフックを掛ける高さ							
	0m (定元)	～	0.85m	1.0m	1.15m	1.3m	1.45m	1.6m
自由落下距離	フルハーネス型 タイプ2 ※		2.3m ラベル表記	2.15m	2.0m	1.85m	1.7m	1.55m
落下距離			4.1m ラベル表記	3.95m	3.8m	3.65m	3.5m	3.35m
必要となる作業床の高さ			6.75m以上	4.1m以上	3.95m以上	3.8m以上	3.65m以上	3.5m以上

※現在のところ取扱いはございません。なおタイプ1はこの条件では使用できません。

●使用高さの制限について

このランヤードは3ページ右上の図の使用を想定しております。
D環の高さ：1.45m フック取付け高さ：0.85m
この場合、
最大自由落下距離：2.3m、落下距離(作業床からの落下距離)：4.1mとなります。

作業中 → 墜落后ランヤードが緊張し、ショックアブソーバが作動する状態 → 落下が停止した状態

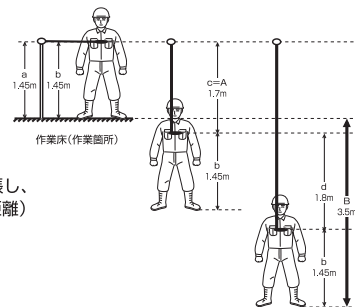


作業床からフック取付け高さが0.85m、落下距離が4.1m以下の場所でご使用になる場合は、フックを0.85mより高い位置に掛け替えてご使用ください。

例として、同じD環の高さの方が、使用高さ3.5mの場所でご使用される場合の推奨使用方法を右図に記します。

D環の高さ：1.45m
フック取付け高さ：1.45m
(0.6m高い位置に掛け替える)

作業中 → 墜落后ランヤードが緊張し、ショックアブソーバが作動する状態 → 落下が停止した状態



●体重(装備重量)*の制限について

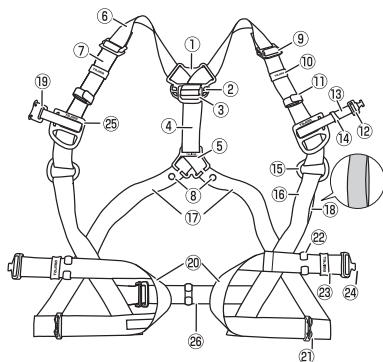
体重は100kg以下でご使用ください。

体重が100kgを超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、墜落制止用器具が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。

*体重(装備重量)：体重と装着する全ての物の合計重量

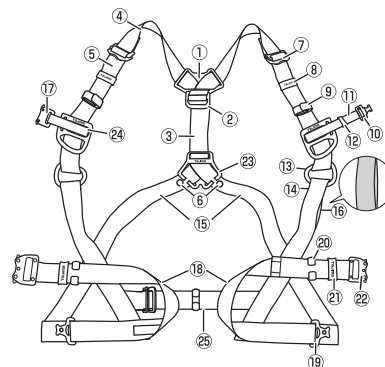
2.フルハーネス本体の構造および各部名称

ZAタイプ



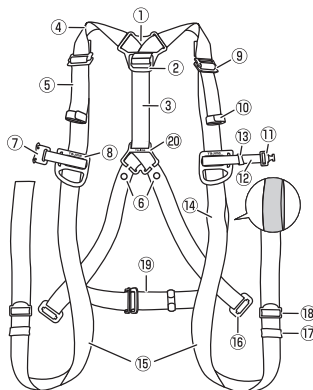
- ①バックパッド
- ②AR環
- ③D環
- ④背中ベルト
- ⑤腰パッド
- ⑥肩ベルトA
- ⑦肩ベルトB
- ⑧固定用ボタンホック
- ⑨肩バックル
- ⑩ベルトストッパー
- ⑪ロックバンド
- ⑫胸バックル（凸側）
- ⑬胸ベルト
- ⑭胸ベルト用ベルト通し
- ⑮ザイルリング
- ⑯腰ベルトA
- ⑰腰ベルトB
- ⑱固定用ループ
- ⑲胸バックル（凹側）
- ⑳腿ベルト
- ㉑腿バックル（凹側）
- ㉒ベルトキーパー
- ㉓ベルトストッパー
- ㉔腿バックル（凸側）
- ㉕フックハンガー
- ㉖骨盤ベルト

ZSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦肩バックル
- ⑧ベルトストッパー
- ⑨ロックバンド
- ⑩胸バックル（凸側）
- ⑪胸ベルト
- ⑫胸ベルト用ベルト通し
- ⑬ザイルリング
- ⑭腰ベルトA
- ⑮腰ベルトB
- ⑯固定用ループ
- ⑰胸バックル（凹側）
- ⑱腿ベルト
- ⑲腿バックル（凸側）
- ㉑ベルトキーパー
- ㉒ベルトストッパー
- ㉓腿バックル（凹側）
- ㉔フックハンガー
- ㉕骨盤ベルト

GSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦胸バックル（凹側）
- ⑧フックハンガー
- ⑨肩バックル
- ⑩ロックバンド
- ⑪胸バックル（凸側）
- ⑫胸ベルト
- ⑬胸ベルト用ベルト通し
- ⑭固定用ループ
- ⑮腿ベルト
- ⑯腿バックル（凹側）
- ⑰ベルトキーパー
- ⑱腿バックル（凸側）
- ⑲骨盤ベルト
- ⑳腰パッド

3. 装着方法

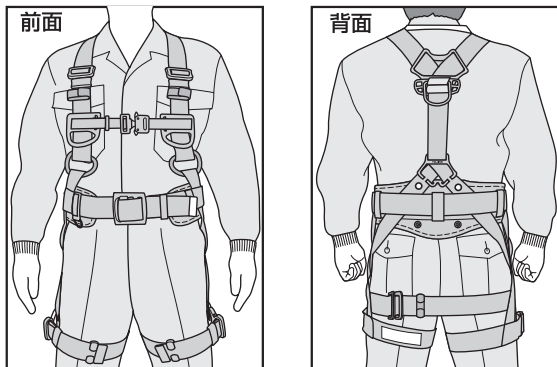
ご注意

SEG フルハーネスは胴ベルトには直接取付けることはできません。12ページをご確認の上、タジマの **SEG** 胴当てベルトと胴ベルトを組合せてご使用ください。

SEGフルハーネス + **SEG** 胴当てベルト + 胴ベルト

〈装着例〉

※イラストはZシリーズです。

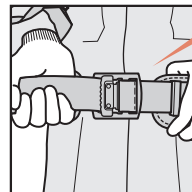
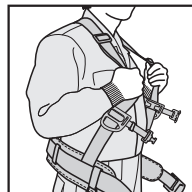


対応表	フルハーネス		
	S	M	L
胴当てベルト			
GAXW600・ACRX600・USFX600・USCX600	○	○	※2
GAXW700・CRX700・ACRX700・USFX700・USCX700・CKRX700	○	○	○
GAXW800・CRX800・ACRX800・USFX800・USCX800・CKRX800	○	○	○
CRX900・CKRX900	※1	○	○

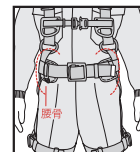
※1. フルハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定（引掛けガイド内側）
 ※2. フルハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定（引掛けガイド外側）
 フルハーネスと胴当てベルトの組合せは同サイズのものをおすすめします

3-1. 装着方法 ※イラストはZシリーズです。ZS、GSシリーズも同じ装着方法です。

- ①フルハーネスの胸バックル、腿バックル、胴ベルトのバックルを外した後、リュックを背負うように肩ベルトに腕を通す。この時肩ベルトがよじれないように注意する。
- ②胴ベルトを腰骨の高さに合わせ、体にフィットするように長さを調整し装着する。

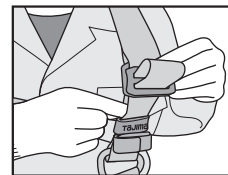


腰骨の高さ

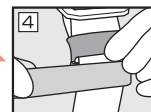
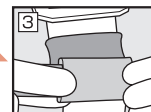


- ③肩バックルを使い、肩ベルトの長さを調整し、体にフィットさせる。
 （調整目安：肩ベルトA/B、背中ベルトが適度に張った状態）

肩ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。



- ④肩ベルトが緩まないようベルトストッパーを肩バックル下に移動させる。（Z/A/ZSのみ）
 調整後余った肩ベルトは下の図の手順でまとめ固定する。



肩ベルトBの先端のロックバンドをはがす

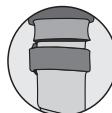
はがしたロックバンドを軸に余った肩ベルトを巻く

ベルトストッパー下まで巻取り、その状態でロックバンドを使ってベルトを固定する。

※ロックバンドの黒面が上になるようにベルトに巻付け固定する。

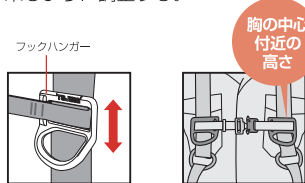


表側



裏側

- ⑤フックハンガーを上下にスライドさせ、胸ベルトが胸の中心付近の高さに来るように調整する。

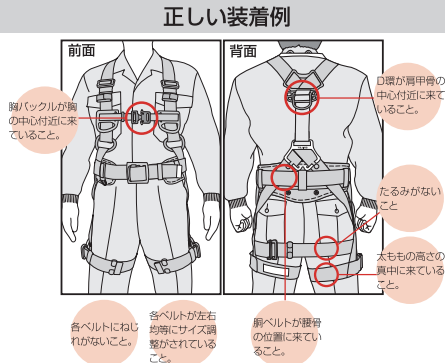


- ⑦ZA/ZSシリーズの場合
腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）に差し込み固定。その後太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調整する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。また腿ベルトが緩まないように、ベルトストッパーを腿バックル横に移動させる。（ZA/ZSのみ）

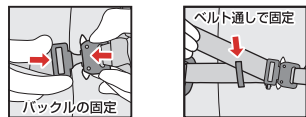


腿ベルトの長さ調節は11ページをご覧ください。

- ⑧骨盤ベルトにたるみが出ないように骨盤ベルトの長さを調節する。余った骨盤ベルトはベルトキーパーに通し固定する。

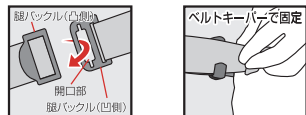


- ⑥胸ベルトの胸バックル（凸側）を胸バックル（凹側）に差し込み固定。その後、胸ベルトの長さを調整する。（調整目安：胸ベルトが適度に張った状態）余った胸ベルトは胸ベルト用ベルト通しに通し固定する。



胸ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

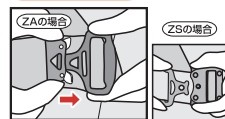
- ⑦GSシリーズの場合
腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に通し固定。その後太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調整する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。



3-2.バックルの使用方法

ZA/ZSシリーズの腿バックル

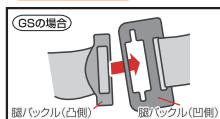
連結する時



- ①片方の腿バックル（凹側）を持ち、反対側の腿バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。

GSシリーズの腿バックル

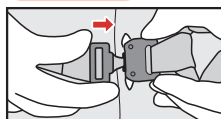
連結する時



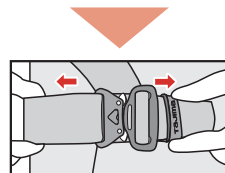
- ①腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に矢印の方向で通し固定します。

全シリーズ共通胸バックル

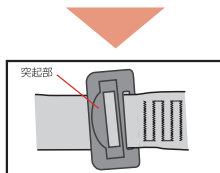
連結する時



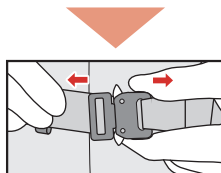
- ①片方の手で胸バックル（凸側）を持ち、胸バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。



- ②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに腿ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

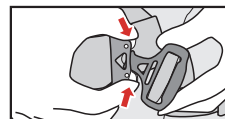


- ②腿バックル（凸側）の突起部が縫製部の逆側に来ていることを確認してください。



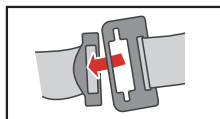
- ②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに胸ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

外す時



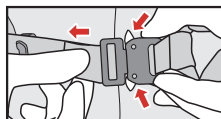
- 両側のロック解除レバーを同時に押すと腿バックルが外れます。

外す時



- 腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に矢印の方向で通すと腿バックルが外れます。

外す時



- 両側のロック解除レバーを同時に押すと胸バックルが外れます。

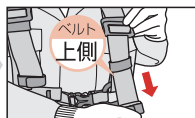
3-3.ベルトの長さ調節 ※イラストはZAシリーズです。GS/ZSも同じ調節方法です。

肩ベルト

ベルトを短くする場合



- ① 下側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

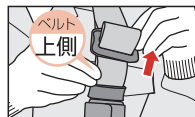


- ② 上側の肩ベルトBを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



- ③ ベルトストッパーをバックルの下に移動する。(ZA/ZSのみ)

ベルトを長くする場合



- ① 上側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。



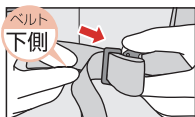
- ② 下側の肩ベルトBを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



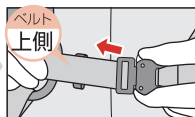
- ③ ベルトストッパーをバックルの下に移動する。(ZA/ZSのみ)

胸ベルト

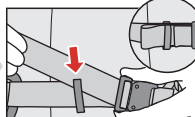
ベルトを短くする場合



- ① 下側の胸ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

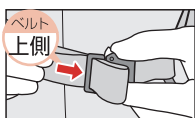


- ② 上側のベルトを引張り「たわみ」を無くす。



- ③ 上側の胸ベルトを「胸ベルト用ベルト通し」に固定し、長い場合は折り返す。

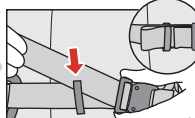
ベルトを長くする場合



- ① 上側の胸ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。



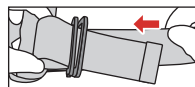
- ② 下側のベルトを引張り「たわみ」を無くす。



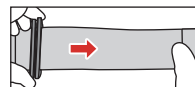
- ③ 上側の胸ベルトを「胸ベルト用ベルト通し」に固定し、長い場合は折り返す。

骨盤ベルト

ベルトを短くする場合



- ① 下側の骨盤ベルトを矢印の方向へ押し出して「たわみ」を作る。

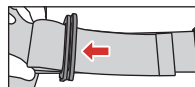


- ② 上側の骨盤ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。

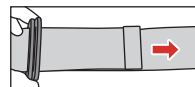


- ③ 上側の骨盤ベルトをベルトキーパーに固定し、長い場合は折り返す。

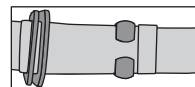
ベルトを長くする場合



- ① 上側の骨盤ベルトを矢印の方向へ押し出して「たわみ」を作る。



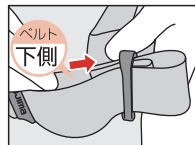
- ② 下側の骨盤ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



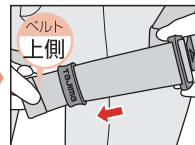
- ③ 上側の骨盤ベルトをベルトキーパーに固定し、長い場合は折り返す。

腿ベルト

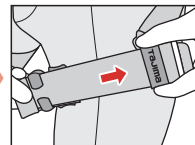
ベルトを短くする場合



- ① 下側の腿ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

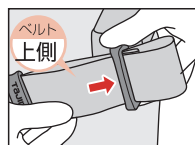


- ② 上側の腿ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。

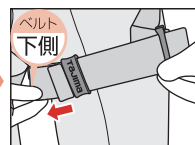


- ③ 調節後、余ったベルトをベルトキーパーに通し、ベルトストッパーをバックル側に寄せる。

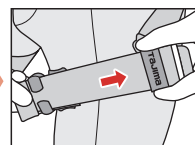
ベルトを長くする場合



- ① 上側の腿ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

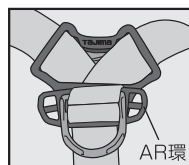


- ② 下側の腿ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



- ③ 調節後、余ったベルトをベルトキーパーに通し、ベルトストッパーをバックル側に寄せる。

3-4.AR環の使用法 (ZAのみ)



AR環には安全ロープが取り付けられます。

●安全ロープ取り付け穴(1穴) 許容重量:1.0kg以下



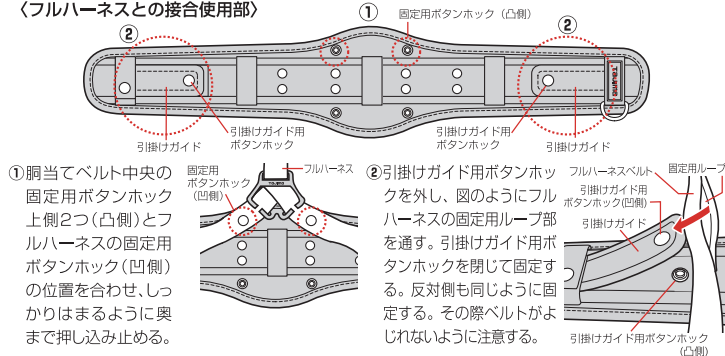
※設定荷重以上の安全ロープ(取付け工具を含む)は絶対に取付けしないでください。

3-5. SEGフルハーネスとSEG胴当てベルトの取り付け方法

〔注意〕必ずフルハーネスと胴当てベルトを先に取付けてから胴ベルトを取付けてください。

※イラストはCRXシリーズです。その他シリーズも同じ取り付け方法です。

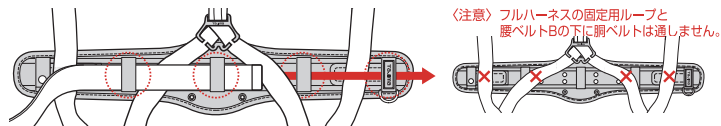
〈フルハーネスとの接合使用部〉



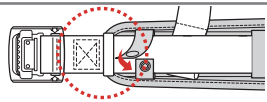
3-6. 胴ベルトの取り付け方法

3-5.の方法でフルハーネスと胴当てベルトを取付けた後、図のように胴ベルトを胴当てのベルトループに通す。この時、フルハーネスの腰ベルトBは胴当てベルトの左右真ん中のベルトループの内側に来るようにする。

〔ベルトループ数〕GAXW600のベルトループは2箇所、その他の胴当てベルトは4箇所あります。



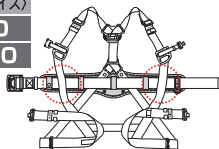
ボタン式ベルトループのボタンを外し、胴ベルトのバックルを通し、最後にボタンを止め固定する。



〈ご注意〉下記製品の組合せの場合、胴当てベルトの「引掛けガイド」は使用せず、胴ベルトを下記位置でフルハーネスの固定用ループに通します。

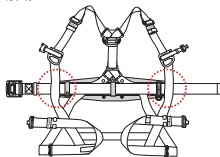
〈対応表※1の組合せの場合〉

フルハーネス（Sサイズ）
CRX900
CKRX900



〈対応表※2の組合せの場合〉

フルハーネス（Lサイズ）
GAXW600
ACRX600
USFX600
USCX600



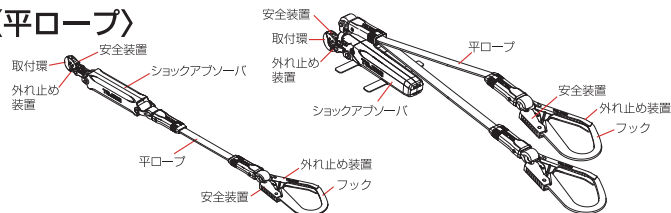
※固定用ループの位置にご注意ください。

4. フルハーネス型ランヤードの構造および各部名称

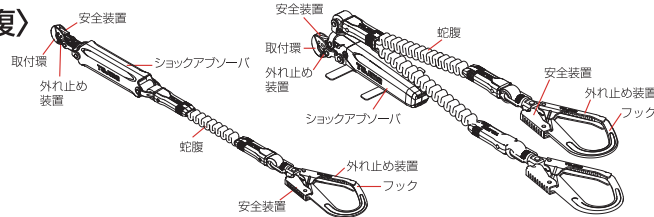
使用するランヤードについて

フルハーネスに使用するランヤードは、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。フルハーネス型ランヤード以外を組合せた場合、墜落制止時の衝撃荷重が「墜落制止用具の規格」に定められた4kNを超える場合があります。またフルハーネスと組合せるフルハーネス型ランヤードは当社製品をご使用いただくことを推奨します。

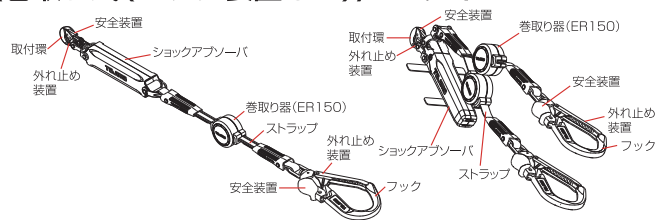
〈平ロープ〉



〈蛇腹〉

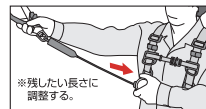


〈巻取り式（ロック装置なし）〉ERタイプ



〈ストラップ長さの調節方法〉

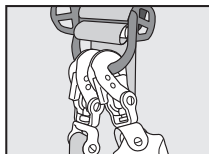
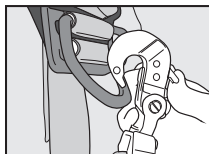
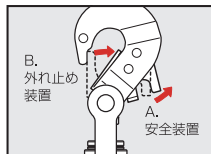
- ① ストラップを引出す
- ② 引出したい長さになるようにリール本体を身体側にスライドさせ、ストラップを固定する。



5.フルハーネスへのフルハーネス型ランヤードの取付け方法

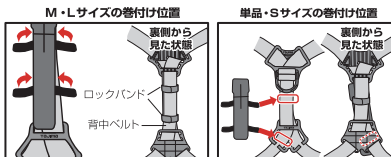
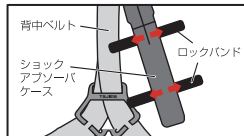
フルハーネスのD環と直接ランヤードが付いている製品については、この取付け作業は必要ありません。

- ①A安全装置を引上げて、B外れ止め装置を押して取付環を開く。
- ②フルハーネスのD環に取付ける。
- ③シングルランヤードを2本取付ける場合は図のように取付けます。



5-1.フルハーネスの背中ベルトにフルハーネス型ダブルランヤードを固定する方法

- ①上記方法でフルハーネスにフルハーネス型ダブルランヤードを取付け後、ショックアブソーバケースの裏側のロックバンド2カ所をはがす。
- ②はがしたロックバンドをフルハーネスの背中ベルトに巻付け、ショックアブソーバケースを固定する。
※単品・Sサイズはロックバンドの巻き付け位置が異なります。



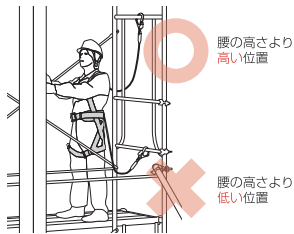
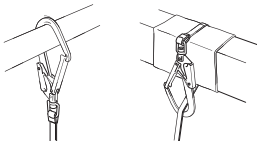
5-2.フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。



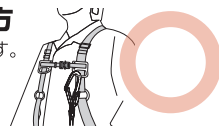
5-3.フックの使用法

フックは腰の高さより高い位置の堅固な構造物等に直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。



5-4.フックハンガーの使い方

フックハンガーはフック休止専用部品です。

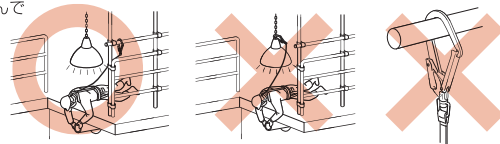


6.必ずお守りください（使用上の注意事項）

危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

- ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

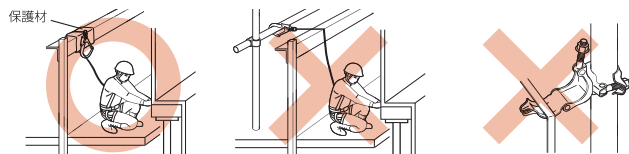
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれがなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。



電線等弱い構造物に取付けると、墜落制止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。

- ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

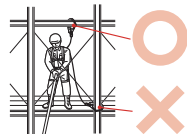
ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。



墜落制止時に鋭い角でランヤードが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

- フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックは必ず腰の高さより高い位置に取付けてください。低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり床面または下方の障害物に接触する危険性があります。また衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼす恐れがあるばかりか、ランヤードが切断する危険性があります。絶対にしないでください。



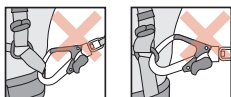
- フルハーネス型ランヤードをフルハーネスのD環に取付ける際は、フルハーネス装着前に取付けてください。装着後に取付ける場合は別の人に確実に取付けてもらってください。

- 本品を墜落制止目的でご使用になる場合、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。絶対にワークポジショニング用ロープ（U字つり）、補助ロープ（移動用）は使用しないでください。

- フックハンガーをD環等、強度のある器具の代わりとして使用しないでください。
フックハンガーは使用していないランヤードのフックを吊り下げるためのものです。フックハンガーをD環等強度のある金具の代わりとして使用した場合、墜落制止時にフックハンガーが外れたり、壊れて重大事故につながる危険性がありますので、絶対にしないでください。



- アクティブリングやハーネスベルトにフックは絶対に取付けないでください。



- 改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

- 組合せて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

- フックは正しく掛けてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにフックの主軸の方向と、墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けてください。フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			

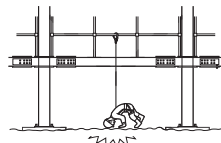
誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材が押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

- どちらか一方のランヤードが構造物と連結しているようにしてください。（ランヤード2本をご使用の場合）

どちらか一方のランヤードを掛ける前にもう一方のランヤードを外すと、構造物との接続がなくなり、墜落する危険性があります。

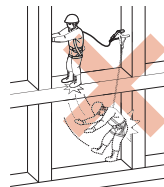
警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

- 墜落制止用器具は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

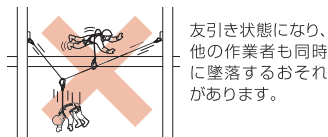


- ランヤードは墜落制止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。

- ランヤードは振り子状態にならないように取付けてください。

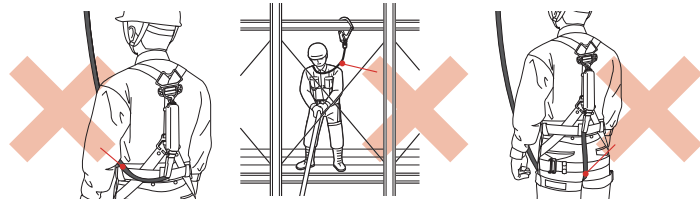


- 親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

- ランヤードが首の前にある状態や脇、股に挟み込んだままで作業をしないでください。



- 一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

右図のように環類が変形・破損していれば、大きな外力が加わった可能性があります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。

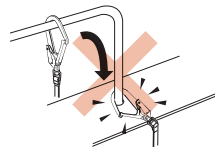


正常なD環の状態 一度墜落阻止したD環の状態

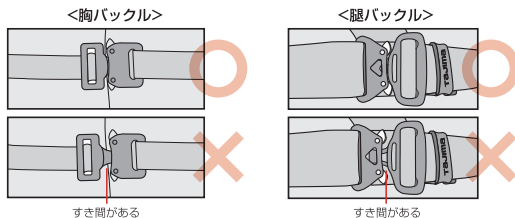
外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。

- フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けしないでください。

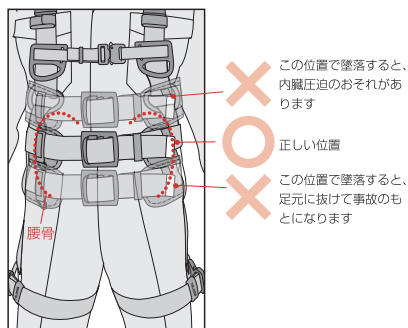
支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場所にはフックを掛けしないでください。



- フルハーネスのバックルが確実にロックされていることを確認してください。

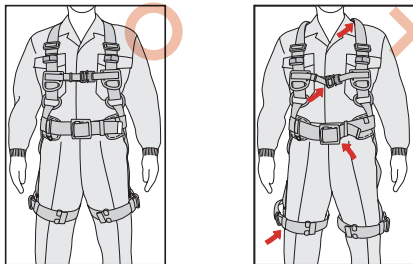


- 腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかり締めてください。



- 必ずベルトの長さを体にフィットするように調節してご使用ください。

ベルトを緩めた状態で装着していると、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、体が損傷したり、フルハーネスが体から抜けて重大な事故につながる可能性があります。また作業時に突起物などに緩んだベルトが引掛かり転倒する恐れがあります。



- 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

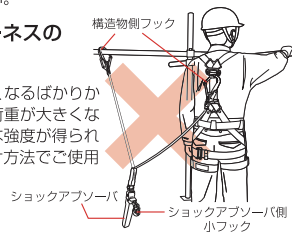
- ⚡ 雨の日は感電に注意してください。

- 墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください。

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。なお、使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、巻取り器のロック装置が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

- ショックアブソーバ側の小フックをフルハーネスの背中D環に取付けてご使用ください。

誤った取付け方法でご使用された場合、落下距離が長くなるばかりか墜落制止時にショックアブソーバが全く機能せず衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼす危険性があります。また十分な強度が得られず墜落制止できない恐れがありますので、正しい取付け方法でご使用ください。



⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

- 墜落制止用器具に体重を掛けて作業をしないでください。

万一の墜落制止を目的に使用する製品です。

- 丁寧に扱ってください。

ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取り式タイプについてはストラップを巻取り器に収納してください。

- フルハーネス、フルハーネス型ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトを組合せてご使用になる場合は、当社製品を組合せていただくことを推奨します。

- フルハーネスと胴当てベルトは同じサイズのを組合せていただくことを推奨します。

- 墜落制止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋へ入れてください。

- 墜落制止用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

- 胴当てベルト、胴ベルトをご使用にならず、フルハーネスのみで装着の場合はご自身の体型サイズよりもワンサイズ小さいハーネスをご使用される事を推奨します。

7. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。
墜落制止用器具および関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。
- 始 業 点 検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
点検後地上で墜落制止用器具を装着し、異常のないことを確認してください。
- 定 期 点 検：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。
- 異常時点検：作業中墜落制止用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

●墜落制止用器具点検チェックリスト【日常の点検を励行してください】
廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。
(このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください)

点検項目		廃棄基準	判定
フルハーネス	両 耳	摩耗・擦り切れ	2mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの
	幅の中	摩耗・擦り切れ	2mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの
	全 体	薬品・塗料	2mm 以上付着しているもの
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの
	縫製部	縫糸	1 ヲ所以上切断しているもの
	バックル	変形	締まり具合が悪いもの リベットのカジメ部にガタ・変形があるもの
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカジメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの ベルトの端合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)
錆			全体に錆が発生しているもの
ばね			折損、脱落しているもの
環類		変形	目視で確認できる変形のあるもの
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
その他	錆	全体に錆が発生しているもの 割れ、亀裂のあるもの	
胴ヘルメット	両 耳	摩耗・擦り切れ	2mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの
	幅の中	摩耗・擦り切れ	2mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの
	全 体	薬品・塗料	2mm 以上付着しているもの
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの
	先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの	
	縫製部	縫糸	1 ヲ所以上切断しているもの

点検項目		廃棄基準	判定	
胴ヘルメット	バックル	変形	締まり具合が悪いもの リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの ベルトの端合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)	
			錆	全体に錆が発生しているもの
			ばね	折損、脱落しているもの
		フック	変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの リベットのカシメ部にガタつきがあるもの
摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの			
	錆		全体に錆が発生しているもの	
	ばね		折損、脱落しているもの	
巻取り器	変形		ストラップの巻込み、引出しができないもの	
	取付ねじ	巻取り器の取付ねじが脱落しているもの		
	破損・傷	巻取り器が破損しているもの		
ストラップ 平ロープ	摩耗・擦り切れ	芯の露出、また 1mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの 使用開始から 2 年が経過しているもの		
	切り傷	芯の露出、また 1mm 以上の切り傷のあるもの		
	焼損・溶融	芯の露出、また 1mm 以上の焼損・溶融しているもの		
	薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの		
	縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの		
	縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの		
蛇腹	摩耗・毛羽立ち	全体的に摩耗・毛羽立ちがあるもの(素手で確認) 使用開始から 2 年が経過しているもの		
	切り傷	1mm 以上の切り傷のあるもの		
	焼損・溶融	1mm 以上の焼損・溶融しているもの		
	薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの		
	収縮性	泥・錆・塵などの汚れにより、柔軟性または収縮性が失われたもの		
	縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの		
ショック アブソーバ	縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの		
	薬品・塗料	薬品が付着したもの 薬品により変色・溶融個所があるもの 塗料が著しく付着して、硬化したもの		
		切り傷	カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの (テープなどを巻付けないでください)	
	擦り切れ	両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの		
	衝撃荷重	大きな衝撃荷重を受け作動したもの		
	変形	目視で確認できる変形のあるもの		
環類	摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの		
	錆	全体に錆が発生しているもの		

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

墜落制止用具の廃棄基準の一例

ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
	両耳	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの	幅の中	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの
ストラップ・平ロープ・蛇腹	切り傷		摩耗	
	 1mm以上の摩耗・切り傷があるもの		 芯が見えているもの	
	形崩れ		薬品・塗料	
	 全体に波打っているもの		 塗料が付着して硬化しているもの。また薬品が付着し、変色しているもの	
バックル	損傷・溶融		縫糸	
	 変形		 縫糸が1カ所以上切断しているもの	
環類	変形		摩滅・傷	
	 変形し、締め具合の悪いもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
ショックアブソーバ	変形		摩滅・傷	
	 目視で変形が確認できるもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
フック	破れ		摩滅・傷	
	 カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
巻取り器	変形		破損・傷	
	 外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
巻取り器	変形		破損・傷	
	 ストラップの巻込み、引出しができないもの		 本体が破損しているもの	

8. 保管と手入れのしかた

●墜落制止用具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。

●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

●高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

9. 交換の目安（耐用期間）

使いかたによって異なりますが、交換の目安としては、ランヤード部は使用開始年月より2年、フルハーネス本体・ベルト部は3年くらいを目途としてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

●使用を開始した年月を腿ベルト裏面に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（下図参照）。

●ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。

